

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597800022		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム徳佐あいおい苑		
所在地	山口県山口市阿東徳佐中987-5		
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徳佐という自然が豊かな環境の中で、四季を感じながら一人ひとりのペースに合わせてゆったりと楽しく過ごして頂いている。天候の良い日はウッドデッキにてお茶会を開催したり、戸外に出かけ、草花を直に感じることもできる。食事は全て手作りで、利用者の皆様は「美味しい」と言われ、ほとんど残すことなく食べられる。また、ボランティアの方々の来苑頂いたり、保育園や、観光農場、リンゴ園等へも出かけて行き、季節の行事に参加し地元の方々との交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調理員5名を確保され、三食とも事業所で食事づくりをされています。近所の人からの差し入れの野菜や、職員からの山菜、地元産の野菜やお米など、旬で新鮮な食材を使用されて、利用者の希望を取り入れられた献立で、ユニット毎に調理しておられます。ウッドデッキに出て花見をされながら手づくり弁当を食べられたり、ソーメン流しや干し柿づくりをされています。季節毎の行事食やおやつづくり、外食など、利用者が食事を楽しめるように支援しておられます。利用者は、近隣の散歩をされたり、お菓子を買って出かけている他、花見や地域の行事、りんご狩り、牧場での動物とのふれあい、外食など、利用者の行きたいところを聞かれて、毎月、計画を立てられ、季節に合わせた行事で、利用者が外出を楽しめるように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑の特色を生かした誰にでも分かりやすい理念を共有し、実践に繋げている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の職員会議のなかで理念について話し合ったり、日々のケアの場面において理念に立ち戻り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会に加入している。近隣の方より、野菜の差し入れを頂いたり、保育園、婦人会と行事等を通じて交流している。	自治会に加入しており、回覧板で地域の情報の把握をしている。年1回地域交流センターで開催している三世代交流会に利用者と職員が参加している他、地域の文化祭や八幡様の祭り、秋まつり、保育園の運動会見学に利用者と職員が一緒に出かけ地域の人と交流をしている。年1回の家族交流会には家族や地域の人、他グループホームの管理者が参加して交流している。ボランティア(フォークダンス、銭太鼓、日本舞踊、三味線)の来訪があり利用者と交流している。他法人施設の盆踊りや食事会に利用者が参加している。地域の人が事業所周辺の草刈をしてくれたり、野菜や花を差し入れてくれる。散歩時にあいさつをかわしたり、花壇の花を植えるときに声をかけてくれるなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事やボランティアの来苑、苑の行事への参加や日々の散歩を通じて触れ合いながら、認知症への理解、支援に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各々自己評価することで、現在の状況把握でき、振り返る機会になった。様々な意見を取り入れ、これからの介護に活かして行きたい。	管理者は、職員会議で評価の意義を説明し、全職員に自己評価のための書類を配布し、記入したものを管理者とユニットリーダーがまとめている。まとめたものは職員がいつでも閲覧できるようにしている。前回の外部評価結果をうけて、運営推進会議のメンバーを増やしたり、外部研修に積極的に参加しているなど、できることから改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、市職員、介護相談員、婦人会、他施設職員、入居者、家族に参加頂き、サービス内容の状況等確認し、意見交換することで、サービスの向上に生かしている。	会議は2か月に1回開催し、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見交換をしている。メンバーより外出先についての情報提供があり、外出の支援に活かしている。新たに、利用者1名、介護相談員2名をメンバーに加えているが、毎回会議への参加メンバーが少なく会議を活かした取り組みまでには至っていない。	・運営推進会議にメンバーが参加できる工夫 ・会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報提供及び収集を行うと共に、必要に応じて相談助言を頂いている。また、介護相談員の訪問を受けたり、地域包括交流センターを訪問し、協力関係を築いている。	市の担当者とは、運営推進会議時に情報交換をしたり、更新手続き時に直接出向いて相談し、助言を得ているなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や出向いて議事録を手渡ししたり、個別ケースの相談をするなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて話し合い、言葉による拘束を含めて日々のケアを見直している。日中は玄関のドア、ホームの窓等開放し、閉塞感のない環境作りを行っている。	マニュアルがあり、職員は法人研修で身体拘束について学び、理解している他、職員会議で話し合い抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出したい利用者には職員が一緒に出かけて支援している。スピーチロックについては、職員間で注意しあったり、管理者やユニットリーダーがその都度指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症について理解した上で、日々のケアが虐待になりうるケアをしていないか、必要に応じて職員間でお互い声を掛け合い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内に後見人制度を利用されている方がおられている為、後見人の方と直接話をする機会があり、支援に繋げている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時、又は改定等の際は、各ご家族に説明を行い、理解・同意を得られるよう、努力している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員会を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。玄関にはご意見箱を設置している。電話や面会、また施設外で話す機会を活用し、意見を伺い、運営に反映するように努めている。	苦情や相談の受付体制、処理手続きを定め、契約時に利用者と家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。電話や面会時、家族交流会(年1回)などで家族の意見や要望を聞く機会を設けている。月1回発行している事業所だよりと一緒に、利用者一人ひとりの近況と写真を送付して、家族が意見を言いやすいように工夫している。家族から日常生活についての要望や献立のについての質問などがあり、その都度対応している。職員の名前がわからないという意見があり、事業所だよりに写真を載せて職員を紹介している。2か月に1度介護相談員が来訪し、利用者の話を聞いて職員に伝えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談や日々の業務、職員会議にて職員の意見や提案を聞き、運営に反映している。	管理者は、月1回の職員会議や年2回の個別面談で職員からの意見や要望を聞く機会を設けている他、日常の業務のなかで聞いている。職員の業務担当(広報、安全対策、環境整備、物品、など)を決めたり、管理者は職員に話しかけたりして意見が言いやすいように工夫している。利用者の状況の変化によりユニット間を移動できる職員4名を配置して利用者の安全なケアの工夫をするなど、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートにより、キャリアアップできる環境を整えている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内への研修には、月1回参加し、地域法人外での研修への参加を増やしている。一人一人のケアの実践力を人事考課シートにて確認し、面談にて把握している。	外部研修は、情報を把握して、スタッフルームに掲示して職員に伝えている。職員の希望と段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。年6回いずれかにほぼ全員が参加している。受講後は職員会議のなかで復命し、全職員の共有を図っている。法人研修は、毎月1回開催し、職員8名が参加している。内部研修は月1回の職員会議にあわせて30分程度勉強会として開催している。外部研修や法人研修の復命や看護師による緊急時の対応など、テーマを決めて実施している。資格取得のための支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会で認知症関係のネットワーク作りを行っている。阿東地区のグループホームでは、お互いに運営推進会議や行事に参加し合い、意見交換する等、交流を図っている。		

自己 目	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人や家族、医師や医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員等と面談し、利用者の身体状況や病状・生活歴・趣味や思い等を聞き取り、信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をして頂いたり、ご家族を訪問し、疑問や要望を聞き、安心して入居できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の報告を確認したうえで、訪問することにより本人や家族が何に困っているかを聞くことを心掛け、必要な支援を行えるような初期ケアプランを作成するように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や簡単な掃除、レク活動と一緒にやっている。また、食事は同じメニューを会話をしながら楽しく食べられるよう、環境作りにも努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時、本人の様子を話したり行事写真を見て頂きながら、お伝えしている。また、ホーム通信等で日々の様子をお伝えしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親族・友人・地域の面会時には、お茶を飲みながら、ゆっくりと会話を楽しんで頂けるよう努めている。馴染みの方、ボランティアの方の訪問にて、これまでの関係が途切れないよう努めている。	家族の面会、親戚の人や友人、近所の知人の来訪がある他、電話の取り次ぎや年賀状の支援をしている。行きつけのスーパーマーケットでの買い物、来訪してくれる地元の美容院の利用などの支援をしている。道の駅へのドライブ、家族の協力を得ての外出、外泊、墓参り、寺参り、法事や葬儀への出席、結婚式への参加など、なじみの人と場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状況等を見極めながら、利用者同士のよりよい関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご本人やご家族の方へのフォローを行い、関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、個々の思いや希望などを記録し、職員間で情報を共有することでケアの向上に努めている。	入居時の基本情報やアセスメントを活用している他、日常のかかわりの中で利用者が発した言葉や行動、表情を察知し気づいたことを介護記録に記録し、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員間で伝達ノートや介護記録で共有している。困難な場合は、関わり方を変えてみたり、家族から様子を聞きながら職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーからの情報収集や、ご家族からの聞き取りにより、これまでの暮らし方の把握に努めている。また、日々の関わりの中からも話を聞けるよう心がけている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、現状を把握し、必要に応じて病院受診やご家族に連絡をしている。また、職員会議時に入居者との関わり方の話をしながら、現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族を意向を踏まえ、モニタリングやカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。また、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度話し合って介護計画を見直している。	本人の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして、利用者を担当している職員が作成した仮の計画をもとに、月1回のカンファレンスで、計画作成担当者が中心となって全職員で話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人の言葉を記録に残し、職員間で情報を共有している。また、それに基づいて日々のケアや介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議で、その時のニーズを話し合いながら、状況に応じた、個々の外出などのサービスを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の婦人会、ボランティア、保育園との交流を図り、また、阿東の自然を生かした取り組みを行い、楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の受診・往診を受けている。また、個々の症状や体調の変化、ご家族の希望などにより、専門医の受診や往診を行っている。	以前からの医療機関をかかりつけ医としている1名の利用者の他は、協力医療機関をかかりつけ医としている。以前からのかかりつけ医も往診の支援をしている他、協力医療機関からは、月2回の訪問診療がある。定期受診以外や他科受診については、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時は医師に利用者の情報を提供している。受診結果は電話で家族に伝えている。休日や夜間の緊急時には、協力医療機関と連携して対応し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づきや体調の変化等、生じた時は、協力やかかりつけ医等の医療機関に報告・相談し、適切な受診ができるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、主治医や医療連携室と情報交換を行いながら、状況把握している。入院中の経過についても情報を得て、早期退院が出来るよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応について、ご家族に説明し、また意向を伺っている。重度化した場合には、より緊密にご家族・医師・職員間で話し合い、よりよい支援が行われるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けて、事業所でできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度主治医に相談して、家族や関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告やヒヤリハットに基づき、ケアカンファレンスやミーティングにおいて話し合い、事故防止に向けて取り組んでいる。救命講習Ⅱに数名参加し、緊急時の対応を学んでいる。また、協力医療機関に状況にあった緊急時の対応を聞き、実践に繋げている。	事例が生じた場合、その場にいた職員が対応策を話し合い、事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、申し送り時に報告し、全職員に回覧して共有している。職員会議時に安全対策委員会を開催し、今後の予防と対策について検討し、介護計画に取り入れるなどして、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、緊急時の対応について看護師の指導による勉強会を実施している他、法人研修で消防署員による救命救急講習(応急手当)と心肺蘇生(AED)を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害については、定期的に消火や通報訓練を行っている。地域の方々についても緊急時には応援頂けるよう依頼している。	年2回、消防署の協力を得て夜間想定火災の通報、消火、避難訓練を利用者と一緒に実施している。年1回は水害を想定した訓練を実施している。災害時の緊急連絡網に新たに近隣住民2名が加入しているが、訓練に地域の人の参加は得られず、事業所が地域との協力体制を築くよう努めているが、協力体制を構築するまでには至っていない。	・災害時の地域との協力関係の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格や意思を尊重した言葉かけを行うよう努めている。また、ミーティング等で確認している。	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。人格の尊重やプライバシーの確保について職員会議で話し合い確認している。記録物など個人情報取り扱いに注意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を伺い、自己決定できるような働きかけを心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな生活パターンはあるものの出来る限り、一人ひとりのペースや希望に沿った支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力の元、季節ごとにタンスの衣類を入れ替えている。自分で選べる方は、選んで着て頂いている。また、定期的に散髪を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や地元産の食材を取り入れたり、手作り行事食やおやつ作り等も行い、楽しく食事できるよう支援している。また、食事には音楽を聴きながら、ゆったりとした雰囲気の中で職員も一緒に同じ食事を食べている。できる方には、台拭きやトレー拭きをして頂いている。	調理員5名を確保し、三食とも事業所で食事づくりをしている。朝食は職員がつくっている。事業所の畑で採れた野菜や近所の人や家族からの差し入れの野菜、職員が持ってきた山菜、地元産の野菜や米など、旬の新鮮な食材を利用して、利用者の希望を取り入れた献立でユニット毎に調理している。利用者は、山菜の皮むきや台ふき、食器洗い、トレーふき、下膳など、できることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、ミキサー食、半ミキサー食、きざみ食、あらきざみ食、おかゆ、とろみ食など、形態を工夫して支援している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べ、職員は利用者の会話や言葉を聞きながら食事介助をしている。ウッドデッキで手づくり弁当を食べながら花見をしたり、ティータイムやソーメン流し、干し柿づくりをしている。年1回の家族交流会や季節の行事食(おせち、恵方巻、ひな寿司など)、おやつレク(桜餅、ホットケーキ、どら焼き、たこ焼き、おはぎ、クリスマスケーキ)や餅つき、外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に応じて、食べやすい食事形態を工夫している。また、食事量や水分量は記録をとり、足りてない時は補水液や補助食品で補うようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りにて、入居者一人ひとりに合わせた口腔ケア(義歯の保清も含む)を行っている。義歯の方は、1日おきにポリデント消毒を行っている。口腔ケア用具は一週間に1回消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に応じた声掛けや誘導、介助を行い自立に向けた支援の継続に努めている。	介護記録表や排泄確認表を活用して、パターンを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄ができるように支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等、食物繊維の摂取や運動への働きかけを個々に応じて行っている。また、出難い時は、トイレでの腹部マッサージを行い、必要に応じて下剤等の調整も行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	勤務体制上、日曜日以外の曜日で午後から毎日入浴をしている。個々の状態に応じた介助や声掛けを行うことにより、安心して楽しく入浴できるよう支援している。	入浴は日曜日以外の毎日、13時30分から15時30分の間可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。職員と歌を歌ったり会話を楽しんでいる。希望や体調によって、清拭、足浴、シャワー浴、部分浴の支援をしている。入浴したくない人には、言葉かけのタイミングや職員を替えたり、時間をずらしたりして一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせて、休息したい時に休息できるようソファやベットを用意している。また、夜間の安眠に繋げるため、日中、適度な運動をしたり状況に応じて睡眠導入剤等を使用している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用等については、処方箋や薬チェック表を用いて随時確認している。また、薬の飲み込みも確実に行うよう、確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや、生活歴・残存能力を活用することで、気分転換を図ったり毎日楽しく過ごして頂けるよう支援している。	芋ほり、タオル干し、洗濯物たたみ、生け花、エレクトーンを弾く、歌を唄う、日記つける、新聞や絵本を読む、DVDやテレビ視聴(歌、時代劇)、広告紙でごみ箱づくり、縫い物、貼り絵、折り紙、お手玉、輪投げ、風船バレー、玉入れ、カルタ、百人一首の坊主めくり、パズル、ドミノ倒し、魚釣りゲーム、おやつづくり、季節の行事(餅つき、節分の豆まき、ひな祭り、花見、誕生会、母の日、運動会、お月見、クリスマス)や家族交流会、ボランティアとの交流など一人ひとりが活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、計画を立てて季節に沿った行事を楽しんで頂けるよう支援している。また、天候等が良い時にはドライブや散歩し、希望時には地域図書館に行き、本を借りたりと、随時お出かけできるよう支援している。	近隣の散歩やお菓子の買物、季節の花見(梅、桜、アジサイ、ひまわりもみじ)、こいのぼり見学、保育園の運動、道の駅へのドライブ、リンゴ狩り、牧場に出かけて動物とのふれあい、初詣、地域の行事(三世代交流会、文化祭)、八幡様の祭り、秋まつりなどに出かけている他、家族の協力を得て、外食、外泊など、戸外の出かけられるよう支援している。毎月、利用者の希望を聞いて計画を立て、季節に合わせた行事で外出を楽しめるように工夫している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理することが難しいため、施設で管理している。必要に応じて、ご本人やご家族と相談し買物等、行なえるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からは、ご自由に電話して頂くようにしており、かかってきた時には会話を楽しんでおられる。ご自分で字を書ける方が少なくなっているが、書ける方には年賀状を書いて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はホールにて皆さんと一緒に過ごされている方が多く、窓からは豊かな自然を眺めることができる環境である。調理の音や匂いを感じることができる。環境整備では、一緒にできる内容のものは行い居心地良く過ごせるよう努めている。	リビングの掃き出し窓から入る自然の光で明るく、広々としている。目の前には野山の豊かな自然が広がり四季折々の風景が一望できる。リビングに面したウッドデッキに出て、ゆったりと外気に触れることができる。廊下やリビングにソファを置き、利用者は思い思いにくつろげるように工夫している。台所からは調理の音や匂いがして生活感がある。共用部分は床暖房で、加湿器と二重ガラスで寒さ対策をして、温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下などにソファを置き、ご自由に使用できるようにし、また机の配置を工夫して気の合う方同士が談話や好きな活動をしたり、一人静かに過ごせるような場所を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、使い慣れた寝具・洋服・家族の写真や飾りなどを居室に持参して頂くことにより、心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	寝具、衣装ケース、衣装掛け、三段ボックス、時計、温度計など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真、カレンダー、自分の作品などを飾って、安心して居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレなど分かりやすいように表示している。また、建物内部はバリアフリーにし安全な環境づくりに努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳佐あいおい苑

作成日：平成 29 年 2 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議のメンバーの拡大と会議を生かした取り組み	運営推進会議メンバーを増やし、より良い情報交換の場にする	入居者の家族、地域の方に声をかけ気軽に参加出来るような運営推進会議にし、参加メンバーを増やす。また、会議での内容を生かした取り組みを行う	12か月
2	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	全職員が初期対応がスムーズにでき、即対応ができるように努める	緊急時の対応についての内部・外部研修会に参加し、知識、技術を習得すると共に、看護職員のアドバイスにてスムーズな対応ができる様努める	12か月
3	36	災害時の地域との協力体制の構築	消防訓練や運営推進会議へ地域の方や家族に参加してもらい、協力体制を強化する	年二回の消防訓練や日々の災害へのシュミレーションを行い即行動ができるようにする。日頃からの交流を通じて地域の方、家族に参加してもらい協力体制の構築を目指す	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。